

CC

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室ニュース●2011年1月発行

謹賀新年 2011	CONTENTS   ●平成23年年頭のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



# 平成23年年頭のご挨拶

病院医療相談部部長 樋口 和秀

新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、よき新年を お迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、当部署ではケースワークの仕事を含め、地域の医療機関の皆さまへは病診あるいは病々連携などを通じて種々の医療サービスを提供させていただいております。病院内のご意見箱に寄せられますいろんなご意見を参考にさせていただき、少しでも患者さま方が安心して心地よく医療を受けていただけるように誠心誠意の心がけで日々対応させていただいております。また、がん拠点病院としてがんに関するいろんなご相談(病気のこと、治療に関すること、これからの生活のことなど)にも対応させていただいております。この他にも、病院ボランティアの支援活動も行っています。ボランティアの方々の数も増え、活動範囲も徐々に増えています。昨年からは、グリーンボランティアが開始され、病院の緑化などにお

手伝いしてもらっています。病院ボランティアに興味を お持ちの方は、遠慮なく医療相談部職員にご相談くだ さい。

我々の活動もまだまだ不十分なところがあると思います。 医療相談部職員一同、気持ちを新たにしているところです。 皆さま方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げ ます。まだまだ、インフルエンザの危険性もございま すので、予防接種もさることながら、十分な睡眠と 栄養摂取を心がけるなど体調管理に勝るものはない ように思います。皆さま方のご健勝とご発展を祈念しております。

## 診療科の紹介●リハビリテーション科



リハビリテーション科 科長 **佐浦 隆一** 

リハビリテーション科は大阪医科大学附属病院6号館1階の1フロア(1,200㎡)を占め、診察室のほかに、物理療法室、運動療法室(サイベックスマシン、トレッドミル、エルゴメータほか)、水治療法(歩行訓練用プール、ハバードタンクほか)、作業療法室、言語聴覚療法室、義肢工房、検査室(3次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、超音波診断器、表面および針筋電計、超音波骨密度定量装置ほか)などを有しています。当科の特徴は障害を持つ方や子ども、高齢の方の活動(activity)と参加(participation)の自立および生活の質(QOL)の向上を目的に、地域の医療機関、施設などと連携しながら根拠に基づいた(evidence-based)リハビリテーション医療を提供していることであり、リハビリテーション科医師を中心に看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、他科医師、医療ソーシャルワーカーなど多職種の参加と連携によるチームアプローチ(interdisciplinary team approach)を実践しています。

リハビリテーション科では、関連各科との連携を密にとりながら、主に当院に入院されている患者さまを対象に脳血管疾患、運動器(骨・関節)疾患、神経筋疾患、開胸・開腹手術後症例、脊椎脊髄疾患、小児疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、頭頸部術後症例、糖尿病、廃用症候群などに対する急性期~回復期のリハビリテーション医療を行っています(表1)。

#### (表1) 新規患者数 (2009年度実績)

脳血管疾患・脳外傷・その他脳疾患など	316人
	123人
脳性麻痺・その他小児疾患	12人
リウマチを含む骨関節疾患・骨折・外傷・切断など	575人
神経筋疾患	133人
呼吸器疾患·循環器疾患	318人
その他の疾患(悪性腫瘍、熱傷など)	633人
	計 2110人

リハビリテーションとは、障害を持った方ができる限り元の生活を取り戻せるように身体的、精神的に行う訓練や治療、援助のことであり、所謂、筋力強化訓練や歩行訓練などの機能訓練だけを指す言葉ではありません。当科では、急性期にはICUや各科病棟における超早期~早期訓練を処方し、また、本院担当診療科での急性期の治療が一段落した後も継続してリハビリテーションが必要な場合には、病病連携を通じて回復期リハビリテーションが必要な場合には、病病連携を通じて回復期リハビリテーションが必要な場合には、病院医療相談部と連携して介護保険法や身体障害者福祉法、障害者自立支援法などの社会資源を紹介、斡旋するなどして在宅生活(自宅退院)への支援に努めています。

またリハビリテーション科では、関節リウマチ外来、義肢・装具外来、痙性抑制治療外来、神経筋疾患外来、嚥下外来などの専門外来を開設し、疾患特有の障害に精通した医師が障害評価や薬物治療、療養相談などを行っています(表2)。(なお、外来患者さま向けのリハビリテーション(機能訓練など)は現在のところ行っておりませんのでご了承ください。)

#### (表2) 専門外来

関節リウマチ 外来	関節リウマチ患者さまの日常生活 (療養) や自宅での機能訓練法などについて総合的なアドバイスを行っています。
義肢·装具 外来	運動器疾患、脳卒中後遺症、神経筋疾患や脳性麻痺の患者さままで、幅広くその適応の評価、義肢装具の処方から作製までの相談を受けています。
痙性抑制治療 外来	脳性麻痺、脳卒中後遺症、脊髄損傷などの患者さまの痙性麻痺(痙縮)に対して薬物療法のほか、主にボツリヌストキシン注射による痙性抑制治療を行っています。
神経筋疾患外来	神経筋疾患患者さまの日常生活 (療養) や自宅での機能訓練法などについて総合的なアドバイスを行っています。また、針筋電計を用いた電気生理学的検査も適宜行っています。
嚥下外来	嚥下障害の評価、診断、また症例に応じて嚥 下造影検査、嚥下内視鏡検査などを行い、食 形態、食事方法、自宅での訓練法の指導など を行っています。

## 医療連携室から

### ●平成22年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告

去る平成22年11月18日、連携病院より79名、院内より34名の先生方にご参加いただき、ホテルグランヴィア大阪にて開催いたしました。

講演は大阪府医師会 副会長 茂松 茂人 先生より、『「診療報酬改定と最近の指導・監査の動向」―中央情勢を含めて―』と題して講演を行っていただきました。講演の他、病院長より役員会報告、学長より「教育包括連携病院について」、病院医療相談部 部長より「病院医療相談部の現状について」の報告をさせていただきました。

懇親会も大勢の先生方にご出席いただき、盛況のうちに会を終了することができました。





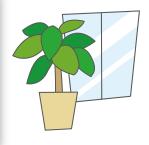
# 診療科からのお知らせ

### 甲状腺疾患について

甲状腺腫瘍の場合は耳鼻咽喉科へ、 甲状腺機能異常の場合は糖尿病代謝・ 内分泌内科へご紹介ください。なお、現 在内分泌内科の初診は、月・火・金曜日 に行っています。

## 一般・乳腺・内分泌外科から

現在、当科の血管外来では静脈疾患 のみの診療に限っております。何卒ご了 承のほど、よろしくお願いします。



#### 編集後記

皆さま方の2010年は如何でしたか?寅年と言う事で阪神タイガース、タイガーウッズに期待しましたが、見事に裏切られました。また、ハイチ、チリで大地震が発生し、我が国においても6~8月の平均気温が観測史上(1898年以降)最も高くなりました。それとは別にスポーツ界では明るい話題が沢山ありました。サッカーワールドカップ南アフリカ大会での決勝トーナメント進出、高校野球では興南高校による沖縄勢初の春夏連覇、そして極めつけはマリナーズのイチローによる10年連続200本安打等々日本国中を大いに沸かせてくれました。本院に目を向けると、「病院機能評価」・「特定共同指導」・「立入検査」など、厳しい第3者評価が続きました。しかし、そのどれも職員一丸となってクリアしてきました。昨年11月には日本医療機能評価機構より認定証(Ver6.0)も届きました。本年は卯年です。卯年の人は一般的に温厚で些細なことにこだわらないため人との交際も円満であるそうです。本院もこれまで同様、特定機能病院・大学附属病院として地域連携の益々の発展に努力を重ねる所存です。

(T.S)



**大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室** 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7 TEL.072-684-6338(医療連携室直通) FAX.072-684-6339